



TERAKOYA
Program

TERAKOYA Program[®]

2025年度実施報告書

令和7年4月1日～令和8年3月31日

イコールチャンス株式会社



はじめに 3

TERAKOYA Program®役割 4

学校現場状況の調査（教員） 5

児童生徒の傾向報告 6

TERAKOYA Program®とは 9

TERAKOYA Program®とは 10

2025年度 実施報告 12

開催地域と開催数 13

2025年度実施カリキュラム 14

キャリア（小学生向け） 15

キャリア（中学生向け） 16

AI倫理 17

メディアバランス 18

個人情報 19

フェイクニュース 20

アート 21

児童生徒の感想コメント 22

先生の評価コメント 23

児童生徒の声（統計） 24

先生の声（統計） 25



TERAKOYA
Program

はじめに



◆キャリア教育の必要性

子どもたちは、自分の好きなことや得意なことについては一定程度理解できている一方で、それらを将来の夢や目標に結びつけることや、将来に対する見通しを持つことに難しさを抱えています。

TERAKOYA Program®の調査においても、「自分の得意なことや好きなことを理解している」と回答した子どもが84.2%である一方、「将来の夢や目標がある」と回答した割合は68.1%にとどまっており、自己理解と将来の目標との間に一定の隔たりが見られます。また、中学生では「将来に不安がある」と回答した割合が52.7%となっており、発達段階に伴い将来に対する見通しの難しさが増している状況がうかがえます。

特に、成長に伴い現実的な視点や将来への不安が高まる中で、自己理解と将来設計をつなぐ機会の不足が、意思形成の停滞につながっていると考えられます。

こうした状況に対し、子どもたちが自分自身と社会との関係性を具体的に捉え、将来について主体的に考えるための支援として、キャリア教育の重要性が高まっています。



◆TERAKOYA Program®の授業としてのキャリア教育の位置付け

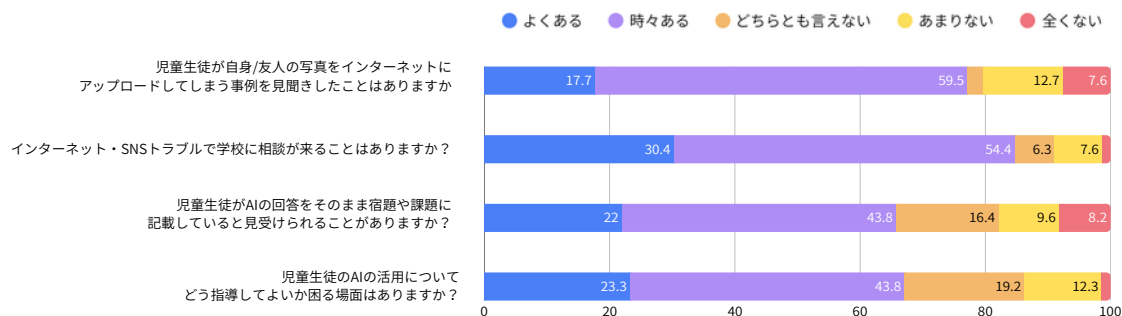
TERAKOYA Program®の特別授業は、子どもたちが将来を主体的に考え、選択していくための基盤を育む学びを、広く「キャリア教育」として位置付けています。

本プログラムでは、社会との接点の中で多様な働き方や生き方に触れるとともに、自分の興味・関心や価値観を整理する機会を設けています。また、現代社会において必要とされるデジタル技術やAIとの関わり方についても扱いながら、将来の進路や職業選択に関連する視点を広げることを目的としています。

さらに、対話や振り返りを通じて自分の考えを整理し、判断基準を形成するプロセスを重視しています。これにより、子どもたちが将来に関する選択について、自ら考え、判断していく力の育成を図っています。

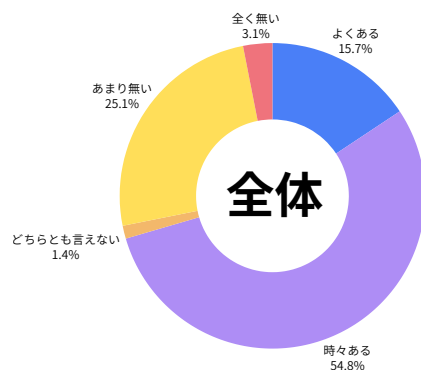
本プログラムは、自己理解と社会理解の双方を踏まえながら、将来の意思形成につながる学びを体系的に提供するものです。

1. インターネットやAIの利用について現場状況の調査

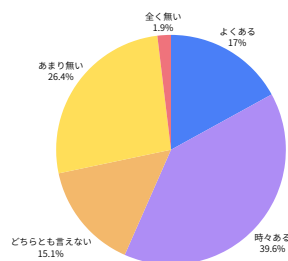


本調査から、インターネットやAIに関するトラブルはすでに学校現場で日常的に発生しており、写真のアップロードやSNSトラブル、AIの不適切な利用などが身近な課題となっていることが分かる。また、教員の多くがAIの指導に困難を感じていることから、学校としてのルールや指導の方向性が十分に整理されていない状況も見て取れる。今後は、「禁止」ととどまるのではなく、子どもたちが自ら考え、適切に使い方を判断できる力を育てることが重要である。そのためには、AIの適切な活用方法を示すとともに、教員を支える仕組みや共通ルールを整備し、学校と社会が連携して指導していくことが求められる。

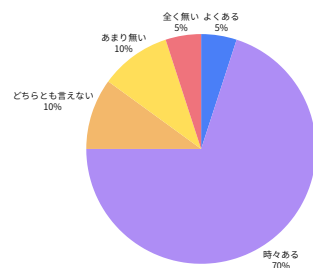
2. 企業や外部専門家との連携など、生徒が社会とのつながりを意識できる機会の有無についての調査



東京都（回答数54名）



東京都以外（回答数19名）（広島市、いの町）



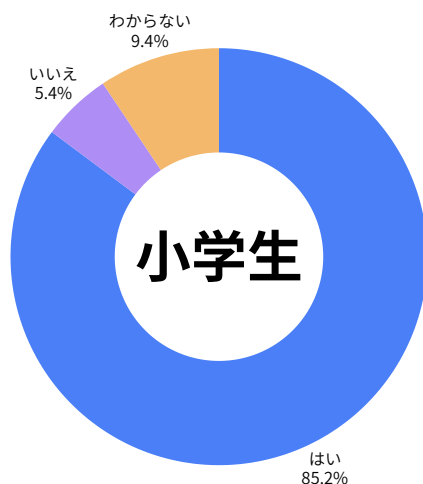
企業や外部専門家との連携機会については、「時々ある」が最も多く、一定程度は実施されているものの、「よくある」は1割台にとどまっており、継続的・日常的に社会と接点を持っている学校は限られていると考えられる。一方で「あまり無い」「全くない」を合わせると約3割にのぼり、学校間で機会の有無に差がある状況もうかがえる。

地域別に見ると、東京都では「よくある」がやや高い一方で、「どちらとも言えない」も一定数存在しており、取り組みの実施状況にばらつきが見られる。対して東京都以外では「時々ある」が7割と高く、単発的な機会は比較的広く提供されている。

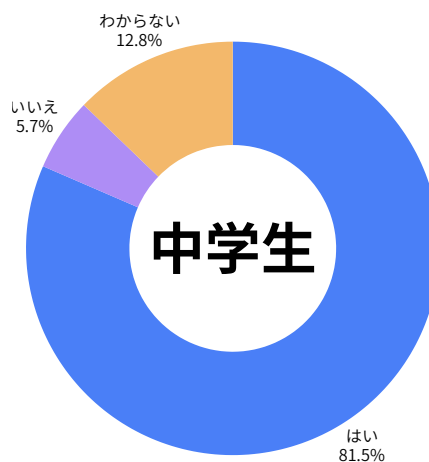
外部連携の“機会の有無”で見ると少ないわけではないが、“頻度・継続性”の面では弱い傾向があるといえる。

これらから、社会との接点は一定程度確保されているものの、継続的な取り組みとして定着しているとは言い難く、今後は単発的な機会提供にとどまらず、日常的に社会と関わる学びの設計が求められる。

自分の得意なことや好きなことを理解していますか？



(回答数：1,890名)



(回答数：664名)

自分の得意なことや好きなこと

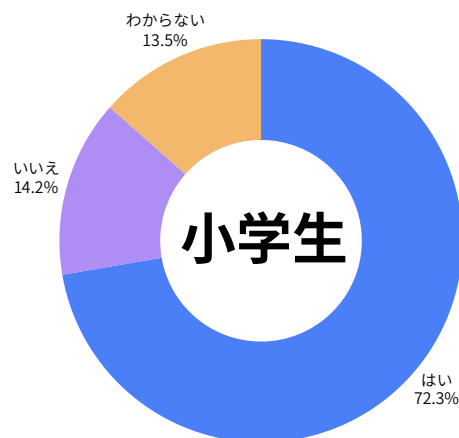
小学生・中学生ともに

8割以上 理解している

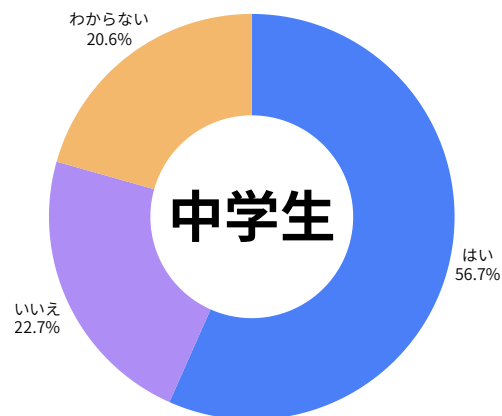
全体の回答を見ると、84.2%が「自分の得意なことや好きなことを理解している」と回答しており、「いいえ」「わからない」と回答した人は15.8%であった。小学生と中学生それぞれで見ると、小学生は「はい」が85.2%、否定・不明は14.8%であった。一方、中学生では「はい」が81.5%、否定・不明は18.5%となっている。

このことから、中学生になるにつれて「自分の得意や好き」に対する認識がやや低下し、自己に対する考えの揺らぎが生じている可能性があると考えられる。

将来の夢や目標はありますか？



(回答数：1,890名)

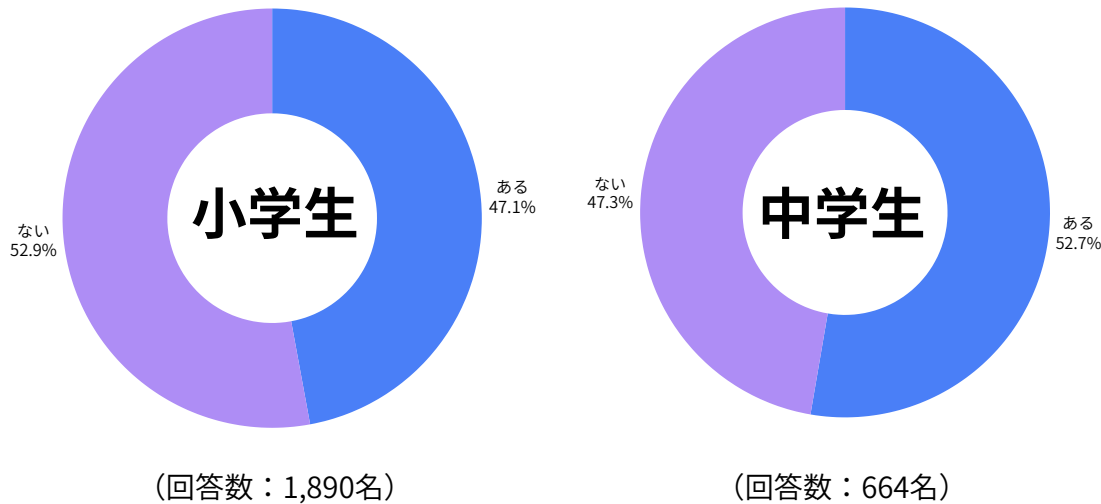


(回答数：664名)

将来の夢や目標がある
中学生
15.6%減少

多くの子どもは将来に対して前向きな意識を持ち、夢や目標を持っているものの、約3割はそれらを明確にできていない、あるいは持てていない状況にあり、将来像の形成には個人差が見られる。特に中学生では「わからない」や「いいえ」の割合が増加しており、小学生に比べて将来に対する迷いや不確実さが強まっていることがうかがえることから、成長に伴い現実的な視点や自己認識の深まりが影響し、将来を具体的に描くことが難しくなっていると考えられる。

将来について、不安や心配なことはありますか？



将来への不安や心配なことがある
中学生
5.6%増加

全体では「将来に不安や心配がある」と回答した割合が48.7%と「ない」の51.3%とで大きな差は見られず、将来への認識が分かれている一方で、小学生では「ある」が47.1%、中学生では52.7%と増加していることから、中学生になるにつれて進路意識や他者比較の影響により将来への不安が高まる傾向が見られ、この時期には不安を軽減し将来を具体的にイメージできるような支援が重要であると考えられる。



TERAKOYA
Program

TERAKOYA Program[®]とは

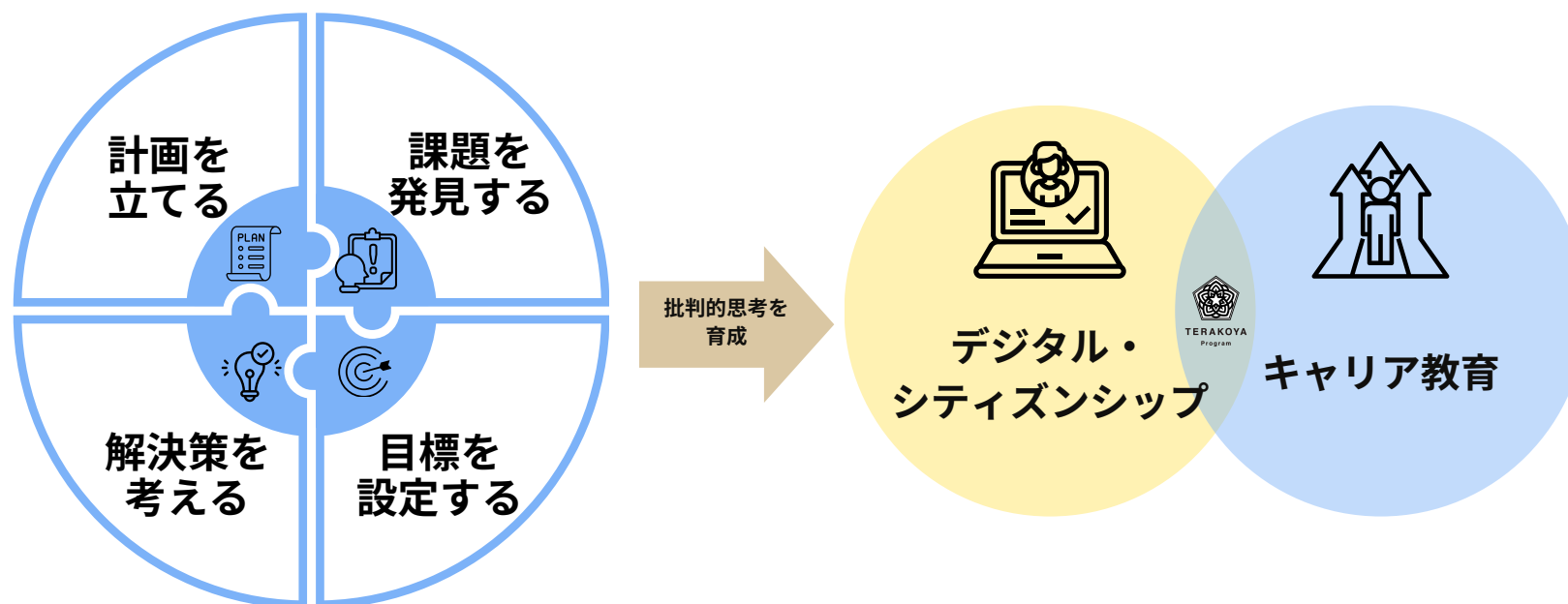


社会全体で次世代を育てる

社会と学びを近づけるキャリア教育プログラム

- ① 教育機関の有識者である大学教授の監修を受けたカリキュラム
監修) 青山学院大学教育人間科学部教育学科 北澤 武教授
- ② 多種多様な業界を跨ぎ、社会の知見を統合した教材開発
- ③ 体験ワークを中心としたインタラクティブな授業進行
- ④ 授業テーマに合わせ、社会で活躍する人材を招致

すべての学習テーマに 探究学習のサイクルを実装





TERAKOYA
Program

2025年度 実施報告



導入学校数

28校



今年度受講数

3,254名

東京都

千代田区立麴町小学校
千代田区立和泉小学校
千代田区立昌平小学校
中央区立常盤小学校
中央区立明石小学校
中央区立中央小学校
中央区立銀座中学校
中央区立晴海西中学校
港区立芝浦小学校
港区立御田小学校
港区立小中一貫教育校 白金の丘学園 白金の丘小学校
港区立小中一貫教育校 白金の丘学園 白金の丘中学校

港区立三田中学校
江東区立北砂小学校
江東区立川南小学校
江東区立東陽小学校
江東区立第二辰巳小学校
江東区立豊洲小学校
江東区立数矢小学校
江東区立越中島小学校
豊島区立池袋本町小学校
豊島区立池袋第一小学校

広島県

広島市立 牛田小学校
広島市立 吉島東小学校
広島市立 楠那小学校
広島市立 広瀬小学校

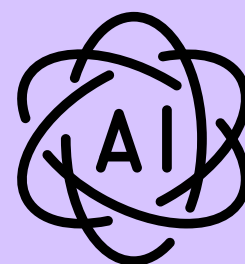
高知県

いの町立 伊野中学校
いの町立 伊野南中学校



キャリア

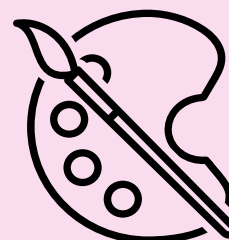
小学生／中学生



AI倫理



デジタル・ シティズンシップ



アート

デジタル・シティズンシップオフライン活動



キャリア 小学生向け

▶ 得られる学び

自分の価値観を深く掘り下げ、その理由まで探究することで、自己理解・内省を深め、その後、職業カルタを通じて自分の価値観と仕事のつながりを発見。子どもたち一人ひとりが主体的にキャリアを切り拓く力を育む。

▶ ねらい

- 価値観と仕事観が一致すると、より満足度高く仕事をできることを知り、授業を通してまだ自分の知らない職業や、職業の仕事感に出会い、触れることで選択肢を広げる。また、今、夢がなかったとしても劣等感や不安も持つ必要はないと気づく。
- 「仕事=お金を稼ぐ」だけではなく、やりがいや達成できること、幸せに生きることなど、自分にとっての仕事の価値観を形成する。
- 今の学校での勉強が、将来に繋がっていることを体験を通して学ぶ。
- 身近な大人の「働く理由」や、「やりがい」に触れながら将来の仕事への興味や期待の心を育む。

▶ ねらいの背景（授業を学ぶ理由）

こども家庭庁の「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査（令和5年度）」によると、13～14歳の66.5%が「就職」に不安を感じ、62.0%が「そもそも就職できるのか・続けられるのか」という漠然とした不安を抱えています。その一方で、PISAの調査では「親の職業を知らない」子どもが増加傾向にあることが示されており、現代の子どもたちは将来への不安を感じつつも、実際の「職業」や「働くこと」のリアルに触れる機会が不足しているのが現状です。こうした背景を踏まえ、本授業では「職業」や「働くこと」について具体的に学び、自分自身のキャリアを前向きに捉え直すための内省の機会を提供します。

▶ 感想から見る本授業を通じた児童生徒の変化・学び

児童には自分自身への理解の深まりと、将来に対する意識の変化が見られた。自分の好きなことや得意なこと、価値観について考えることで、「自分は何を大切にしたいのか」を言葉にできるようになる様子が見られ、将来を考えるための土台が育まれている。また、かるたを通じて多様な職業に触れることで「こんな仕事もあるのか」といった気づきが生まれ、将来を前向きに捉える姿勢が見られた。さらに、「人によって考え方は違う」という理解が広がり、クラスメイトの意見を受け止めながら自分の考えも大切にする姿勢が育まれている。こうした学びを通じて、将来の進路を自分なりに考えようとする意識の高まりが見られた。





キャリア 中学生向け

▶ 得られる学び

実際に社会で活躍している人と関わることで世の中の多様な職種を知り、実際に活躍するプロからリアルな仕事観や求められる資質・スキルを学ぶ。業界や会社名ではなく、職種で進路を捉える視点を得て、自分の可能性を広げながら主体的に進路選択を行う力を育む。

▶ ねらい

- 生徒が職業だけでなく「職種」を知ることで、進路選択の視野を広げる。
- 実際の仕事を「疑似体験」することで、仕事の魅力や役割を実感する。
- 自分の価値観と職業選択を紐づける機会とする。
- 自身の進路やキャリア選択を具体化し、就職、高校や大学のその先までを見据えたキャリア観を形成。

▶ ねらいの背景（授業を学ぶ理由）

中学生という時期は、将来の進路を考える初期段階にありますが、その多くは「職業名」や「会社名」といった表面的なイメージで将来を捉えがちです。しかし、変化の激しい現代社会において、納得感のあるキャリアを築くためには、仕事の内容そのものを示す「職種」への理解が欠かせません。本授業では、第一線で活躍するプロフェッショナルの視点に触れ、仕事の魅力や求められる資質をリアルに体感することを目的としています。業界という枠組みを超えた「職種」の視点を得ることで、生徒たちが自分の可能性を限定せず、高校・大学進学、そしてその先の社会人としての人生までを見据えた、主体的な進路選択能力を育むことを目指します。

▶ 感想から見る本授業を通じた児童生徒の変化・学び

社会人コーチの実務に触れることで、仕事の役割や社会への影響、必要とされる力について現実的に捉える様子が見られた。また、これからの時代に求められる視点への気づきも生まれている。さらに、グループワークや体験活動を通じて、協働することの難しさや重要性を実感するとともに、自分の強みや考えを相手に伝える力への意識も高まっている。加えて、将来の進路は一つに限定されるのではなく、試行錯誤しながら選択していくものであるという認識が広がり、自らの将来について主体的に考えようとする姿勢が見られた。





▶ 得られる学び

社会の第一線で求められるAIの知見と倫理観を、発達段階に合わせて即実践できる内容です。グループでの対話を通じて多様な価値観に触れ、主体的な判断力を養うとともに、自分なりの「AIマイルール」を策定します。

このプロセスは、正解のない問いに向き合う倫理観を育むだけでなく、整備が難しい学校現場の活用ルールを、子どもたちと共に実効性のある形で構築していく貴重な機会となります。

▶ ねらい

- AIの特徴や限界を理解し、正しく活用するための基礎を身につける。
- AI活用の良し悪しを事例を通じて考え、自分なりの判断基準をもてるようにする。
- 自分の生活に合った「AIマイルール」をまとめ、他者と共有することができる。

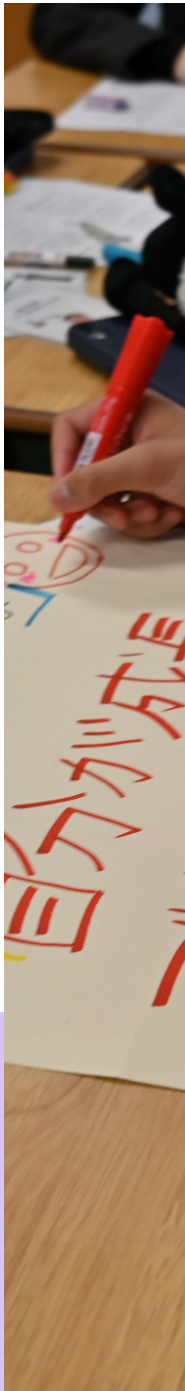
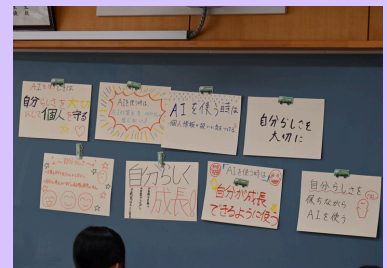
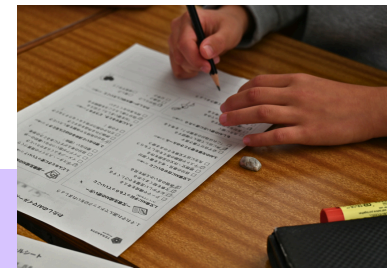
▶ ねらいの背景（授業を学ぶ理由）

AIが日常に溶け込む今、その利便性と同時に、情報の正確性や偏りといった「限界」を正しく理解する力が求められています。本授業では、事例をもとにAI活用の是非を考え、グループで意見を出し合いながらクラスの指針を作り上げます。

自分とは異なる多様な価値観に触れることで、判断の根拠を深め、単なる知識ではない「主体的な倫理観」を養います。対話を通じて得た気づきを自分自身の生活に落とし込み、自分なりの「AIマイルール」を策定することを目指します。技術を盲信するのではなく、自ら考え、賢く共生するための基礎を育みます。

▶ 感想から見る本授業を通じた児童生徒の変化・学び

児童生徒にはAIに対する理解の深化と関わり方の見直しが見られた。日常的にAIを利用している児童生徒が多い中で、その利便性だけでなく、リスクや注意点についても具体的に考える機会となり、「どのように使うべきか」を主体的に捉える姿勢が育まれている。また、意見交換や対話を通じて、自分の考えを持つことの重要性や、他者の考えを踏まえて視野を広げる経験にもつながっている。さらに、AIを単に任せるものではなく、あくまで補助的に活用するという認識が広がり、これからの社会における適切なAI活用への基礎的な理解が醸成されたといえる。





▶ 得られる学び

デジタル利用時間を可視化し、脳の発達や学習への影響、依存の実例を学ぶことで、自分の生活を振り返り、デジタルとリアルバランスを主体的に判断・調整する力を育む。

▶ ねらい

- 自分自身のメディア利用状況を振り返り、どのような時間配分・使い方をしているかを把握する。
- メディアが生活や健康に及ぼす影響を考え、メディアとの適切な付き合い方や利用時間・使い方を主体的に考える。
- 自分に合ったメディア利用のルールを考え、実践できるようにする

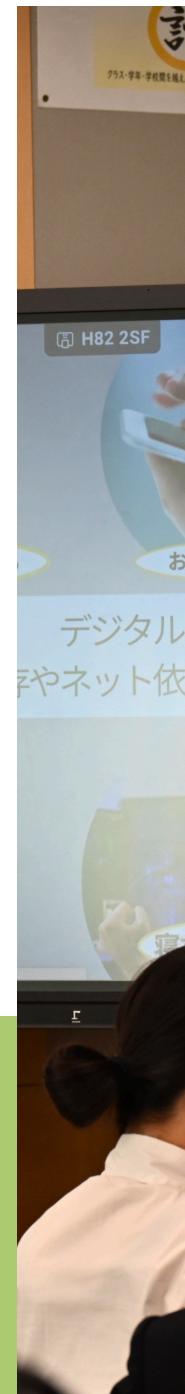
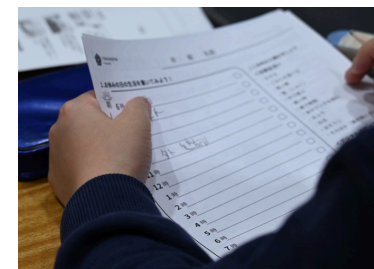
▶ ねらいの背景（授業を学ぶ理由）

現代の子どもたちはネットに接する機会が急増しています。一方で、長時間の動画視聴やゲームによる睡眠不足など、心身への悪影響や「ネット依存」が深刻化しています。2023年の調査では、小中高生の約5人に1人が「依存の疑いあり」と報告されました。^{*1} こうした現状から、子どもたちがメディアの特性を正しく理解し、自らの利用状況を主体的に見直す力を持つことが不可欠です。メディアバランスの学習を通じて、自分に合ったルールを自ら作り、ネット依存を未然に防ぐ力を養う必要があります。

^{*1}新型コロナウイルス感染症流行による親子の生活と健康への影響に関する実態調査

▶ 感想から見る本授業を通じた児童生徒の変化・学び

児童生徒にはデジタル機器との適切な関わり方に対する意識の高まりが見られた。自分の生活を振り返る中で、想像以上にメディア利用時間が長いことに気づく様子や、使用時間を見直そうとする意識の変化が多く見受けられた。また、「使いすぎは良くないが、使わないのではなくバランスが大切である」という理解が広がり、時間を決めて利用する、生活リズムを整えるといった具体的な行動への意識も高まっている。さらに、デジタル機器の使用が学習や生活に影響を及ぼす可能性についての理解が深まり、自らの使い方を主体的に調整しようとする姿勢が見られた。





▶ 得られる学び

SNSの特性や情報の組み合わせによる個人特定のリスクを理解し、疑似体験を通じて危険性を実感する。発信の可否を主体的に判断し、投稿前に一歩立ち止まる習慣と、投稿を見る側の視点で考える力を育む。

▶ ねらい

- デジタル足あとを知り、理解することで、この足あとが残ってしまう行動の一例を知る。
- インターネット上での行動のあり方を身につける。
- インターネット上での発信は自分や他者への責任が生じることを理解する。

▶ ねらいの背景（授業を学ぶ理由）

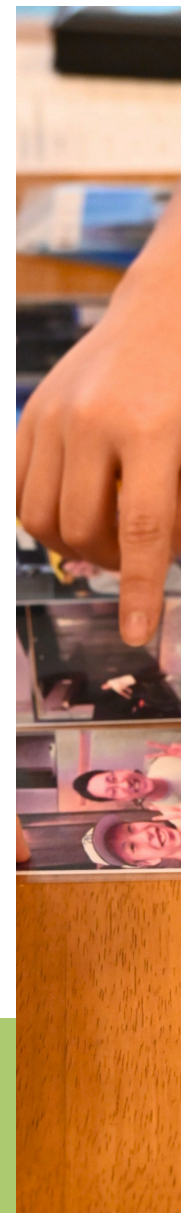
東京都の調査では、小学高学年のスマホ所有率は49.8%と前年から大幅に増加し、SNS利用も3人に2人にのぼります。
※1・2 ネット上の投稿は、消去が困難で「炎上」や個人情報の拡散を招くだけでなく、将来の進学や就職にまで悪影響を及ぼす可能性があります。また、2025年にはライブ配信から居場所を特定された殺傷事件も発生しており、リアルタイムな情報発信の危険性を早期に理解し、対策を講じることが不可欠です。

※1令和6年度「家庭における青少年のスマートフォン等の利用等に関する調査」結果（東京都）

※2小学生高学年のSNS利用率上昇傾向続き、3人に2人が利用している（モバイル研究所）

▶ 感想から見る本授業を通じた児童生徒の変化・学び

児童生徒にはインターネット上における個人情報の扱いに対する理解の深化が見られた。特に、何気ない写真や投稿であっても、複数の情報が組み合わさることで住所や生活圏などが特定されてしまう可能性に気づき、その危険性を具体的に実感する様子が多く見受けられた。また、自分では個人情報を出していないつもりでも、背景や位置情報、投稿内容などから意図せず情報が伝わってしまうことへの理解が進んでいる。こうした学びを通じて、投稿前に内容を見直す、個人情報につながる情報が含まれていないか確認するといった慎重な行動への意識が高まり、自他の安全を守るために主体的に情報を扱おうとする姿勢の醸成がなされた。





▶ 得られる学び

情報を鵜呑みにせず、出典にあたる習慣と見極める視点・手法を身につける。収集・発信の両面で批判的思考を養い、自分と他者を守る適切な情報判断力を育む。

▶ ねらい

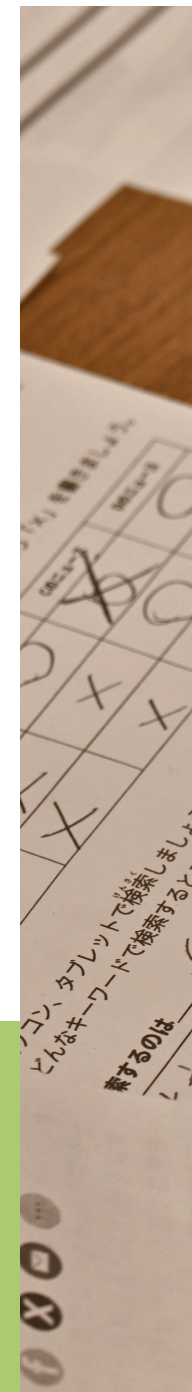
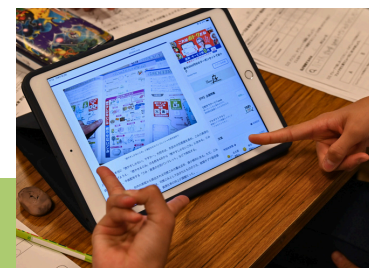
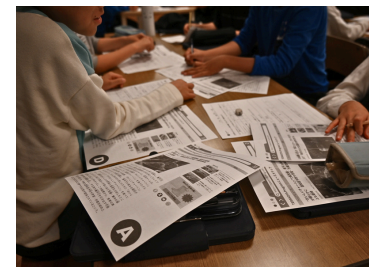
- フェイクニュースの拡散力とリスクを理解し、情報を鵜呑みにせず立ち止まって考える力を養う。
- 過去の事例から混乱や二次被害の恐れを知り、安易に拡散しない態度を身につける。
- 情報源の確認や複数情報の照合を行い、情報の正確さを見極める視点を育てる。
- 真偽の判定そのものより、習得した手順を用いて自ら信頼性を調べるスキルを習得する。

▶ ねらいの背景（授業を学ぶ理由）

昨今、SNSの普及によりフェイクニュースが拡散する機会が増えています。特に大規模な災害時には、不安や親切心からデマを安易に拡散し、逮捕者が出る事例も少なくありません。近年はAIの進化により、フェイクニュースがより巧妙化しており、人物の声や映像を本物そっくりにする「ディープフェイク」の登場で、情報の真偽を見極めることは一層困難になっています。そのため、流れてくる情報を鵜呑みにせず、その真偽を確かめる力が必要です。本授業では、過去の災害時に起きた混乱を例に、ニュースを見極める術を学びます。情報に出会った際、一歩立ち止まって考える態度を養うことを目指します。

▶ 感想から見る本授業を通じた児童生徒の変化・学び

児童生徒にはインターネット上の情報をそのまま信じるのではなく、真偽を見極める必要性に対する理解が深まった。特に、フェイクニュースが身近に存在し、本物と見分けることが想像以上に難しいという実感を持った気づきが多く見られた。また、情報は不安・怒り・親切心といった感情をきっかけに急速に拡散されることがや、悪意の有無にかかわらず他者に影響を与えてしまう可能性があることへの理解も進んだ。これらを踏まえ、発信元や発信日を確認する、複数の情報を比較する、公式情報を参照するといった具体的な行動への意識が高まり、安易に情報を拡散しない姿勢や、一度立ち止まって考える態度の醸成につながった。





▶ 得られる学び

デジタルデバイスによる視覚・聴覚に偏った情報吸収から離れ、五感（触覚・嗅覚・視覚）をフルに活用することで、「オフラインの状態（現実の世界）」がもたらす心の安らぎや、自己表現の心地よさを実感します。また、指先から伝わる感覚に集中することで、自分の内面と向き合う「マインドフルネス」に近い体験を得ることができます。

▶ ねらい

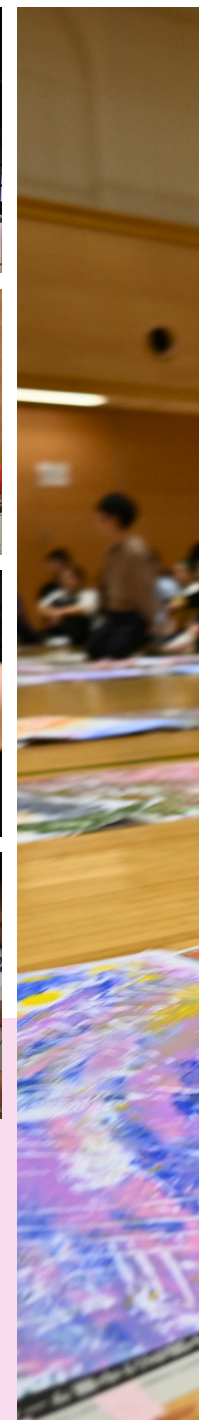
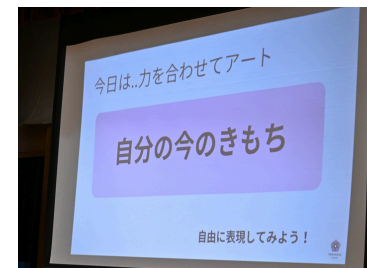
- 絵の具の冷たさや粘り気、独特のにおいなど、デジタルでは代替できない身体的な感覚を楽しみ、現実世界の質感を味わう。
- 指の動きや色の広がりを通じて、今の自分の感情をありのままに描き出す。
- 画面の中の刺激を遮断し、一つの作業に没頭することで、脳と心がリフレッシュされる感覚を体験する。

▶ ねらいの背景（授業を学ぶ理由）

現代生活では通知や動画などの「受け身の刺激」が絶えず、脳が慢性的に疲労しがちです。特にデジタル・シティズンシップにおける「メディアバランス」は、単なる時間制限ではありません。「オフライン時間も大切」ということを知り、子どもたちは主体的にメディアのちょうど良い距離をつくることができます。また、指先を使うフィンガーアートは脳を広く刺激し、発達を促します。デジタルの画一的な動きに対し、絵の具を練る、叩くといった多様な指先の体験は、バランスの取れた成長に不可欠なプロセスです。

▶ 感想から見る本授業を通じた児童生徒の変化・学び

児童にはデジタル機器との関わり方を見直し、オフラインの時間の価値に気づく変化が見られた。多くの児童生徒が、日常的にデジタルに触れる時間の長さを自覚するとともに、使いすぎを見直したい、利用時間を調整したいといった意識の高まりが確認できた。また、フィンガーアートの体験を通じて、手を動かしながら創作に没頭する楽しさや集中のしやすさを実感し、「デジタルがなくても楽しめる」という気づきが生まれている。さらに、絵の具の感触や指先の多様な動きを通じて、身体感覚を伴った学びの重要性にも触れ、デジタル中心の活動とは異なる刺激の価値を理解する様子が見られた。これらの学びから、オフラインの時間を意識的に取り入れながら、自分にとって適切なメディアとの距離を主体的に築こうとする姿勢が醸成された。





<p>多角的な考察力・ 批判的思考力と 行動計画力の醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> • AIが言っていることは全部正しいわけではないと分かりました。 • テレビや動画で出てくるAIは進化の怖さも感じたけれど、だまされない工夫を理解できました。 • AIは使い方次第で便利にも不便にもなると分かり、自分の意見を持って使いたいと思いました。 • 今回習った内容はこれからの社会で役に立つと思い、自分で判断できる人になりたいと感じました。
<p>課題発見力と問いを 立てる力の醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 調べる時に一番上のAI情報をすぐ見ていた自分に気づき、気を付けたいと思いました。 • AI利用のルールについて、今までになく深掘りして考えることができました。 • AIに頼りすぎると自分の意見がなくなるかもしれないと考えました。 • 授業を通して、自分が注意すべきことへの意識が高まり、身近な出来事と結びつけて考えられました。
<p>協働的に思考を深め、 表現・発信する力の醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 意見の違いとその理由を聞くことで、納得しながら考えることができました。 • AIの正しい使い方をみんなで話し合って模索できたのがよかったです。 • 色々な意見を聞いたことが嬉しく、考えが広がりました。 • 自分にはなかった視点を知り、考えが深まったと感じました。

一人ひとりの思考特性に応じた関わりにより、主体的・対話的な探究姿勢が引き出された
 実体験に基づく具体的な題材提示により、探究テーマを「自分事」として捉える力が育まれた
 「正解を与えない」構成により、批判的思考と意思決定力の基礎が養われた



指導技術・柔軟性

- 児童の反応や特性、理解度に応じて柔軟に進行を調整される対応力の高さが印象的で、満足度の高い授業であった。

授業設計・構成へのコメント

- 課題設定から振り返りまでの流れが明確で、思考を深める探究のプロセスがしっかり設計されている点が印象的でした。
- AIやデジタルを「どう使うか」ではなく、「どう向き合うか」を自ら考えさせる授業設計が非常に良かったです。

学びの質・児童の姿

- 子どもたちが学びを自分ごととして捉え、主体的に考えながら対話を通じて理解を深めていく、非常に理想的な学びの形であると感じました。
- リアルな社会との接続を意識しながら主体的に将来やキャリアについて考えられる点が非常に良かったです。

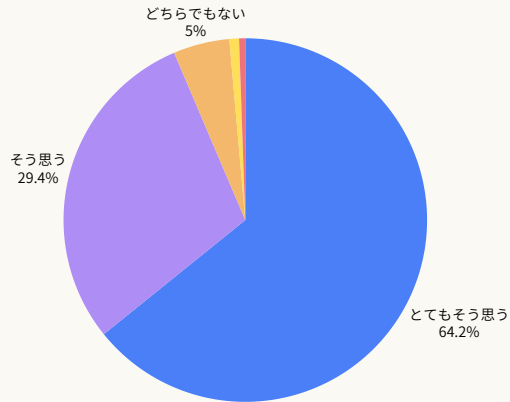
外部連携・拡張性

- 子どもだけでなく、保護者連携や家庭との接続による学びの拡張性を視野に入れた授業設計に価値を感じた。

教育課程・導入妥当性

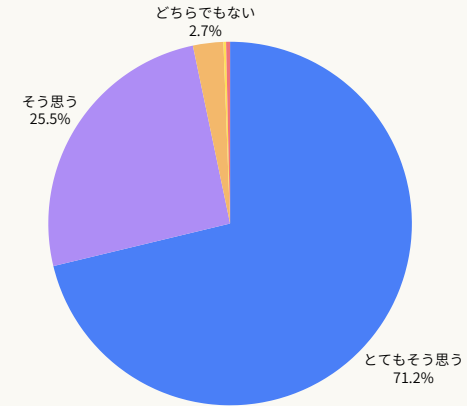
- 学習指導要領にも準拠しており、学校教育の中で実践的に導入できる内容であるため、地区全域に導入いただきたいと思いました。

授業の内容が今後の学校生活や将来に生かせると感じたか



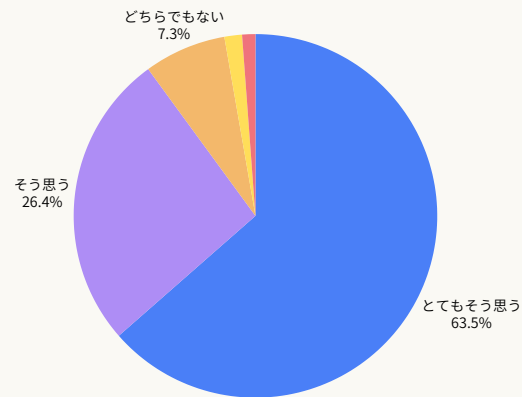
93%以上がTERAKOYA Programの授業を
今後に生かせると回答

授業はわかりやすかったか



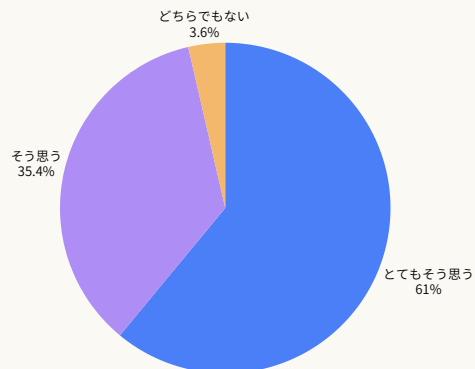
96%以上がTERAKOYA Programの授業を
わかりやすかったと回答

TERAKOYA Programの授業をまた受けたいと思うか



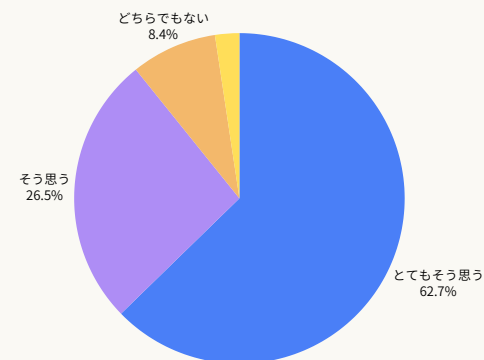
89%がTERAKOYA Programの授業を
また受けたいと回答

授業中の話し合いや発言の機会は適切でしたか？



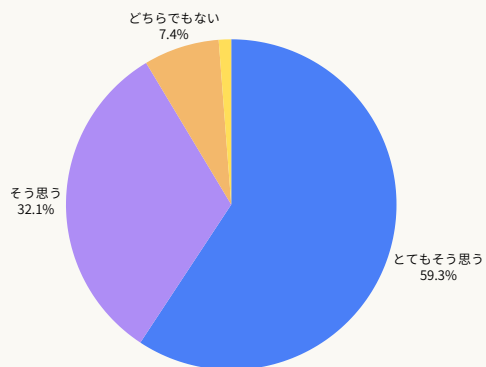
96%以上の先生がTERAKOYA Programの授業を話し合いや発言の機会が適切であると回答

TERAKOYA Programの授業を子どもたちにまた受けてほしいか



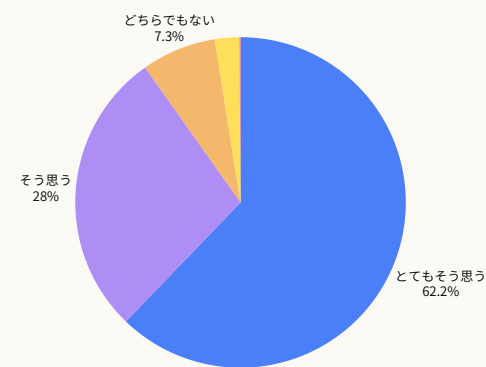
90%以上の先生がTERAKOYA Programの授業をまた受けてほしいと回答

将来の仕事や進路選択に役立ちそうだと思いますか？



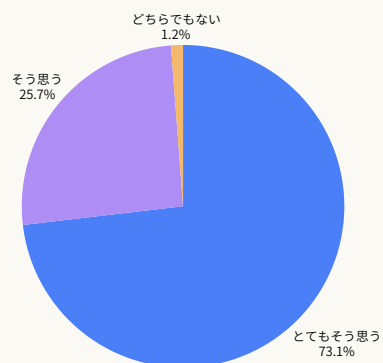
90%以上の先生がTERAKOYA Programの授業を役に立つと回答

他校にもこの授業をおすすめしたいと思いませんか？



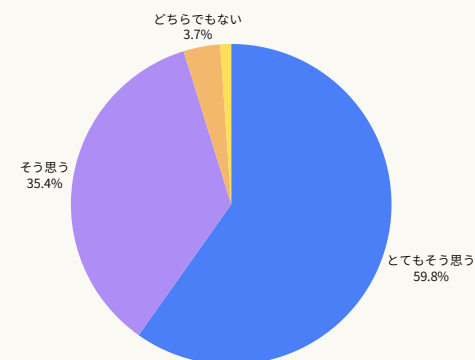
90%以上の先生がTERAKOYA Programの授業をおすすめしたいと回答

講師の説明はわかりやすかったか



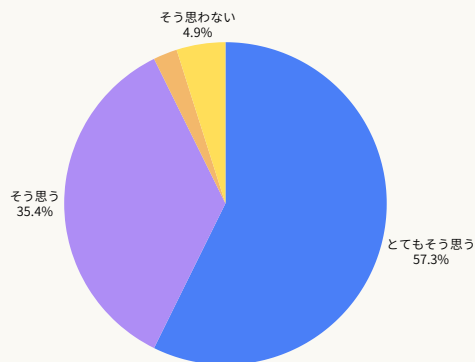
98%以上の先生がTERAKOYA Programの授業内容をわかりやすいと回答

授業の流れはスムーズでしたか？



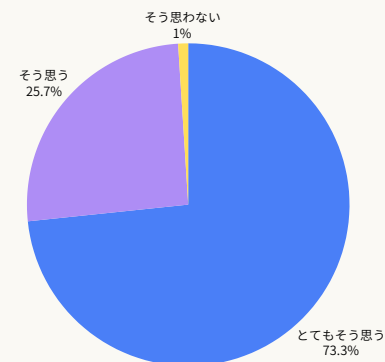
95%以上の先生がTERAKOYA Programの授業を授業の流れはスムーズであったと回答

授業の難易度は適切なレベルでしたか？



92%以上の先生がTERAKOYA Programの授業のレベルが児童生徒に適切であったと回答

スライドや資料の内容はわかりやすかったですか？



99%の先生がTERAKOYA Programの授業のスライドや資料の内容がわかりやすいと回答



イコールチャンス株式会社

〒104-0045

東京都中央区築地3-7-11Cube Tsukiji 7F

Tel : 03-6555-4055 (平日9:00~17:00)

Mail : terakoya-program@eqchance.com



<https://terakoya-program.com/>